

【令和7年3月改訂】

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画に基づく 蒲郡北地区個別計画

コンセプト

教育環境を向上させ、
「子育て」と「交流」の
拠点をつくる

施設再編 の内容

- 蒲郡北部小学校・蒲郡西部小学校・北部保育園・西部保育園・北部公民館・西部公民館の機能を現在の蒲郡北部小学校・北部保育園・北部公民館の敷地に集合させ、学校規模の適正化を図るとともに、「子育て」と「交流」の拠点を形成します。
- 現在の中央小学校の敷地に中央小学校・中部保育園の機能を集合させるとともに、地域連携拠点（公民館活動や地域と連携できる場所）の機能を設置することで、「子育て」と「交流」の拠点を形成します。
- 児童クラブの機能は、各小学校と同じ敷地に設けます。
- 中部中学校は、現地で維持していきます。
- ちゅうぶ児童館は、現地で長期にわたって利用できるよう適切に維持していきます。
- 西部公民館は社会教育施設としての公民館機能を終え、建物の地元自治会への譲渡も含めて今後の活用方法の検討を開始します。



期待される 効果

教育環境の充実

- 小学校の統合により、児童が互いに見習い切磋琢磨する環境が整います。
- 学校規模の拡大により、教員を経験年数、専門性、男女比等についてバランスよく配置することができ、充実したきめ細かな教育環境が保たれます。

子育て環境の充実

- 児童クラブを小学校と同じ敷地に設置することで、交通事故など移動時の危険がなくなります。
- 児童クラブと保育園が同じ敷地にあることで、保護者による送迎等の負担が軽減します。
- 保育園と小学校が同じ敷地にあることで、園児が学校生活に触れる機会が増え、進学がスムーズになります。

活動の拡大・充実

- 施設や設備の相互利用や運営面での連携により、特別教室での地域活動など、各施設の活動の幅が広がります。
- 高齢者が地域の活動に関わる機会など、利用者の活動機会が増加します。

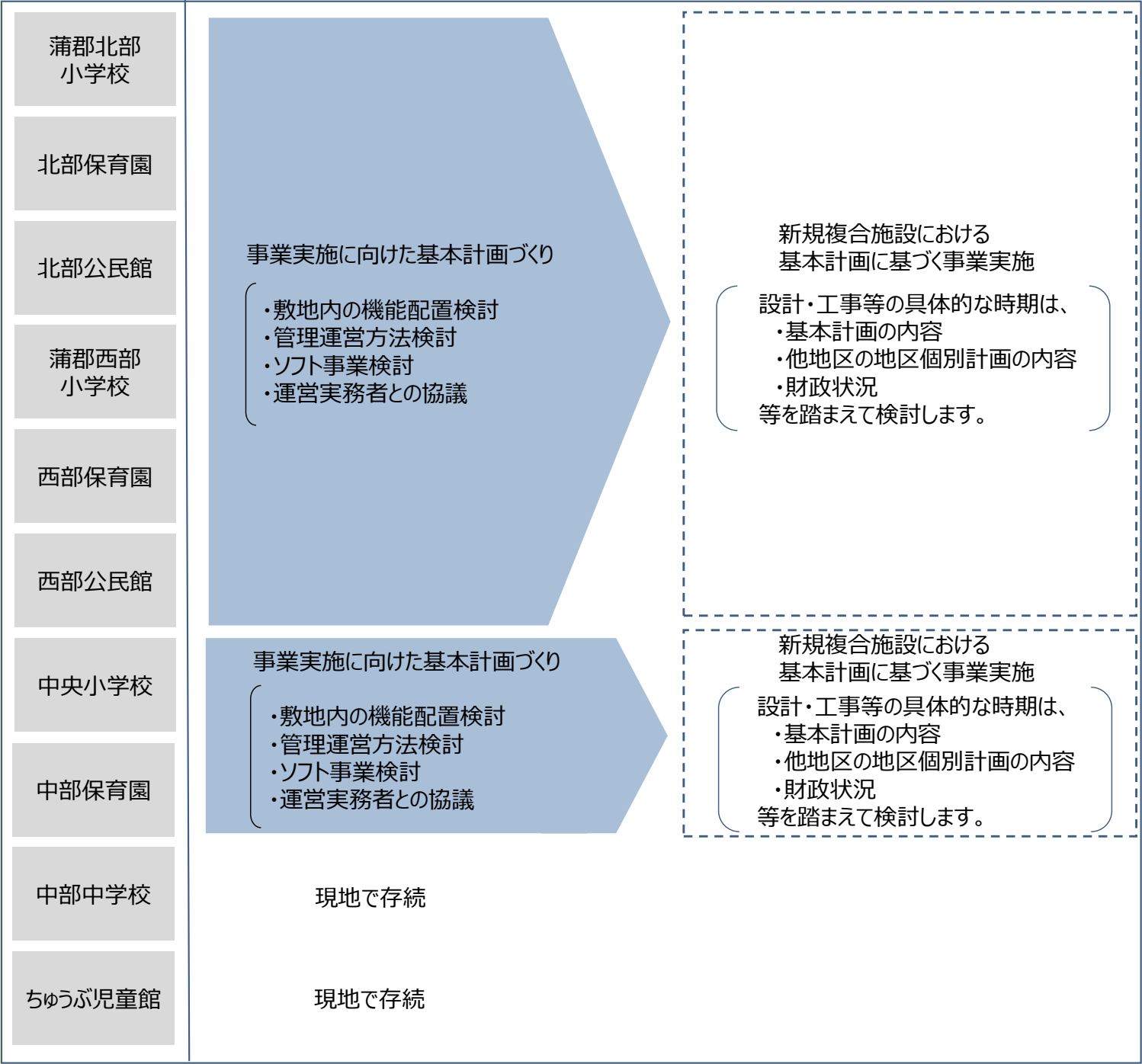
費用の縮減

- 施設の共用や規模の適正化により維持更新費用が縮減できます。また、運営の効率化や一元的な管理により、運営面での費用の縮減が可能となります。

- 施設整備についての詳細な検討を行う中で、駐車場・グラウンドなど、必要な機能を確認し機能の維持に努めます。
- 子どもの安全確保や学校教育に支障が出ないように十分に配慮して、施設の設計や運営方法の検討を進めます。
- スペースの相互利用や運営での連携が円滑に行われるよう、設計上の工夫を行います。
- 学校と地域の連携を深め、交流を促進できるよう、人員体制や運営体制を整えます。
- 施設の整備に際して、若い世代が交流活動や学習活動で利用しやすいよう機能や運営方法を考えます。
- 学校の整備と並行して、通学路の安全性についても検討します。
- 施設跡地の利活用や、機能廃止後の建物の活用などにより、施設再編後も現在の地域のつながりを維持できる仕組みづくりを検討します。

整備を
進める上で
配慮すること

施設整備についての今後の取り組み



本計画の見直しについて



- 本計画は、今後の社会状況、経済・財政状況、ニーズの変化に対応するため、見直しを行い内容を変更する場合があります。

蒲郡市公共施設マネジメント実施計画に基づく蒲郡北地区個別計画

発行 愛知県蒲郡市
愛知県蒲郡市旭町17番1号
TEL 0533-66-1111（代表）

発行年月 令和4年12月
令和7年3月一部改訂



地区の皆様の思い

蒲郡市では、小中学校・保育園・児童館・公民館の再編にあたり、地域の特性や特徴を施設に反映し、再編がまちづくりにつながるように、地区住民の皆様のご意見を伺う機会を設け、市民協働により、中学校区を単位とした「地区個別計画」を策定することとしています。蒲郡北地区の皆様からご意見を伺う機会として、「蒲郡北地区まちづくりと公共施設を考えるワークショップ」を令和元年7月にスタートし、一旦休止を挟んだ後、令和3年12月まで開催しました。また、オープンハウス（パネル展示型説明会）を地区内4会場とインターネット上で行い、ワークショップ参加者以外の方のご意見を広く伺いました。

地区の皆様のご期待をもとにして、市は、この「蒲郡北地区個別計画」を策定しました。以下は、ワークショップに参加された皆様から蒲郡北地区の将来を考える上で重視することとしていただいたご意見です。

教育

小中の連携

- 小中学校が連携できるとよい。

教育環境の向上

- 小学校がクラス分けできる規模となるのは教育環境の面でよい。
- 将来の子ども達に良質な教育を受けてもらえるならば学校の統合も前向きにとらえられる。
- 小規模校の特色である手厚い見守りを今後も維持していきたい。

子育て

地域での見守り

- 地域で子ども達を育てる環境をつくりたい。
- 小学校や保育園、公民館が1つになると子ども達を地域で見守ることができる。

送迎の負担軽減

- 児童クラブと保育園が一緒になると送迎の負担が少なくなる。
- 保育園と小学校が近くにあることで小学校入学時のハードルが下がる。
- 子ども達の移動を考えると児童クラブと小学校は一緒にあったほうが便利で安全だ。
- ちゅうぶ児童館は公園に隣接しており利用しやすい。

利便性

施設の有効利用

- 学校施設でも授業で使っていない時間は地域が利用できると複合化も期待できる。

跡地利用

- 地区内の施設が廃止されるのであれば、その後も上手に活用してほしい。
- 廃止後の建物を高齢者の拠点として活用したい。

アクセス

- 高齢者向けの施設はできるだけ利用者の近くにあるとよい。
- コミュニティバス等によりアクセスの課題を解決することで、施設が離れても利用しやすくなる。

交流

居場所づくり

- 中高年の憩いの場があると、退職後も地域の活動に参加しやすい。

- 公民館に自由に入出りできるフリースペースがあると学生や高齢者が集まる場となる。
- 人のつながりを生むために、目的はなくても気軽に立ち寄れる場所があるとよい。

多世代交流

- 施設の集合により利便性が向上し、多世代が交流できる場となれば地域の活性化につながる。
- 地域の施設がひとつになると、世代間交流が生まれ、子育てがしやすくなる。
- 現在の公民館は「高齢者の集会所」のイメージがあるので、親も含めた多世代の活動が重要だ。

地域のつながり

地域交流

- 地区単位で何らかの交流機能があるとよい。
- 学区と自治会がずれている地区があり困っているが整理は難しい。

- 小学校と地域のつながりは大切だ。現在も地元の方にみかんや相撲を教えてもらっている。
- 公民館は歴史文化やお祭りなど地域活動の拠点だ。

安全

通学

- 交通安全と防犯、2つの側面から通学の安全を考えてほしい。

防犯

- 学校と他の施設が複合化する場合は、不審者などへの安全対策を行ってほしい。

その他

- 高齢者などサポートの必要な方を支えていきたい。
- 将来世代の財政負担軽減のため、施設の再編は仕方がない。

- 公共施設がなくなるとコミュニティが崩壊するという危惧もあるが、一時的な現象ともいえる。子どもや孫のことを考え将来を設計したい。

◆ ワークショップでのご意見の詳細やオープンハウス（パネル展示型説明会）でのご意見等は、市ホームページに掲載しています。